

マレーシア・エジプトに先進医療を

外国人医師 2人奮闘

製鉄室蘭病院 研修受け入れ

製鉄記念室蘭病院(室蘭市知利別町)の「脊椎・脊髄センター」で外国人医師2人が研修に励んでいる。同病院は、胆振管内で唯一、外国人医師が特例として医療行為ができる厚生労働省の指定病院で、外国人医師の1人はこの制度を利用してしている。2人は「室蘭で最先端の医療技術を学びたい」と意欲を見せている。(芝垣なの香)

研修しているのは、いずれも整形外科医でマレーシア人のタン・ブーン・ベン医師(36)と、厚労省の臨床研修制度を利用したエジプト人のモハメド・アーメド・ハフエズ・エルメカティ医師(29)。タン医師の研修期間は4月～6月末、エル

メカティ医師は6月～来年3月末だ。臨床研修制度は、一定の診療経験を持つ外国人医師が最長4年、同省の指定病院で医療行為ができる。同省によると、道内の指定病院は15カ所で、昨年度、外国人医師4人が同制度を使って研修を受けた。製鉄病院は今年1月に指定を受け、同制度で医師を受け入れるのは初めて。

同センターは腰や背骨の変形やがんなど脊椎・脊髄の治療に特化した、胆振管内初の専門外来として2013年に開設。国内外から研修や見学が相次いでいる。

エルメカティ医師はエジプトで、同センター長を務める小谷善久副院長の脊椎などの治療に関する論文をインターネットで見つけ、研修を申し込んだ。製鉄病院で小谷副院長とともに高度な手術に参加しており、「合併症が無いよう先進機器を使った安全性の高い手術手法に感動している」と



左から製鉄記念室蘭病院の前田病院長、エルメカティ医師、タン医師、小谷副院長

目を輝かせている。タン医師は、手術の見学や日本国内などでの学会発表にむけた論文執筆に取り組む。3カ月で学んだことをマレーシアの病院でも取り入れたいと話している。一度に2人の外国人医師の長期研修を受け入れるのは製鉄病院として初めて。若手医師にも刺激を与えており、前田征洋病院長は「研修教育病院として誇らし。国際交流の進展の一助になれば」と話している。